

ピープルズ・ホープ・ジャパン 2014 年度 事業報告

1. 概要

当期は東南アジア 4ヶ国での支援活動とともに 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の復興支援も引き続き行いました。

インドネシア・カンボジア・タイ・ベトナムの支援活動は順調に推移し、これら海外支援に対する募金活動においては補助金を含めた収入計画（商品除く）9,968 万円に対し 9,832 万円と計画をほぼ達成しました。支出については計画 7,260 万円に対し実績 6,805 万円となり、計画と実績の差は 455 万円となりました。

新しい活動サイトのミャンマーでは保健省との覚書の締結にむけて、保健省との打ち合わせ、活動候補地の調査ならびに医療機器の寄贈手続きなどを進めました。

なお商品支援についてはミャンマーへの医療器具などを中心に 952 万円のご支援を頂きました。

一方災害支援活動におきましては前期同様、多くの法人・個人の方々のご支援により災害募金収入 1,130 万円、商品寄付 79 万円となり、全日本病院協会と連携し主に気仙沼、石巻、多賀城の被災病院の復興のための医療機器の寄贈、訪問診療用の車両のメンテナンスによる支出は 1,434 万円となり、災害募金残金 601 万円は次期に繰越しました。

また 11 月に発生したフィリピン台風緊急支援でも法人・個人の皆様から 187 万円を超える現金寄付を頂き、現地で活動するシンガポールの団体を通し被災者の支援に使わせていただきました。

2. 2014 度 会計概要

(単位：万円)

計画		実績		
収入	計	海外支援	災害支援	計
受取法人会費	3,600	3391		3391
受取法人寄付	2,150	2709		2709
受取個人会費	760	693		693
パートナー会費	200	196		196
一時寄付	600	523		523
災害募金	890		1130	1130
フィリピン台風募金	—	187		187
公的補助金	2,658	2320		2320
雑収益	—	6		6
商品	140	952	79	1031
計	10,998	10,977	1,209	12,186
支出	計	海外支援	災害支援	計
インドネシア	2,000	1517		1517
カンボジア	1,900	1709		1709
タイ・ベトナム	3,060	3265		3265
ミャンマー	300	314		314
フィリピン台風支援	—	179		179
災害支援	2,116		1355	1355
募金広報費	1,700	1497		1497
管理費	600	577		577
商品	140	952	79	1031
計	11,816	10,010	1,434	11,444
当期収支	-818	+967	-225	+742
次期繰越	5,300	6,259	601	6,860

3. 支援活動報告（事業報告）

3-1. インドネシア支援（総事業費 1,517 万円）

① バンタン州セラン県テイルタヤサ自治区地域保健医療システム強化事業（自主事業）

本年度も保健・医療サービスを提供するソーラー深井戸を備えた保健センターを2棟建設し、当地で建設した施設は診療所を含み累計9棟となりました。MDGs 目標でもある、安全な出産と子供の健康な発育を目指した当事業は着実に成果を挙げ、医療施設での出産率は90%に達しました。2015年度の事業自立化を目差し、健康に暮らす衛生環境改善活動、緊急搬送患者・異常出産に対応できる救急搬送システムの構築にも着手しています。「栄養改善活動」では、栄養菜園の拡張と定着、自治区保健センターの栄養教育センターを活用した調理実習・栄養教育と独自開発メニューの一層の普及の結果、5歳未満児の栄養状態は改善されつつあり、行政への移管が進んでいます。

② 画像診断技術教育支援（自主事業）

毎年実施している東バリ州ギアーニア病院医療専門家への画像診断教育のかわりに、不足している超音波診断装置を一セット支援しました。

③ HIV/AIDS 予防教育支援（自主事業）

東バリ州では若者への HIV 感染拡大の懸念が強く、PHJ タイの HIV/AIDS 感染予防教育ノウハウを生かした活動を計画し教材準備まで進めましたが、州知事の交代に伴う方針変更により実施を見送りました。

3-2. カンボジア支援（総事業費 1,709 万円）

① 母子保健改善に向けた健康な村作り事業（補助金事業）

コンポントム州での3年にわたる「健康な村作り事業」は、今年度が最終年です。村人が正しい知識を身につけ、自主的に病気の予防を行うなど健康を守る行動ができることを目標に活動を行いました。具体的には、保健センターと村の協働促進、村の妊産婦を戸別訪問して母子保健を推進する母子保健ボランティア育成、衛生的な生活を推進する衛生モデル世帯支援、トゥクトゥクを救急車として村で利用する搬送システム作りなどを行いました。現地の人たちが自立して活動できるように一年をかけて移行しました。

② 学校保健パイロット・プロジェクト（自主事業）

コンポントム州教育局と協力し、地域の小学校高学年を対象に保健の授業を実施しました。保健のトピック選定、指導要領作り、カリキュラムの作成など教育局と協働で実施し、学校の先生にトレーニングを行いました。トレーニングを受けた教師が授業を実施し、地域の保健センタースタッフや保健ボランティアも参加しました。ゲームや視覚教材を取り入れ、生徒たちには大変好評でした。

③ 看護師・助産師養成校への医学図書の寄贈事業（自主事業）

コンポンチャム州の看護師・助産師養成校へ医学図書を寄贈しました。カンボジアの学校では図書館があるものの新しい図書があまり手に入らず、看護師・助産師の学生でも最新の医学知見に触れることは難しいのが通常です。そのため、養成校の図書館へ英文の医学図書を購入し、寄贈しました。図書は保健省で選ばれた基本的な図書のリストから特に母子保健に関連するものを選定しました。

3-3. タイ支援（総事業費 3,265 万円）

① HIV/エイズ予防教育事業（補助金事業）

チェンマイ県内の大学生を対象に10年以上HIV/エイズ予防教育を実施してきましたが、その集大成として、2014年度から18の高等専門学校生を対象にした3年事業を開始しました。今年度は、6つの高専の学生がHIV/AIDSの知識と予防意識を高め、感染を予防する行動を取ることを目標に、121名のピアエドゥケーターを育成し、3,170名にピア教育を行いました。また、各学校にピア教育ルームを開設したほか、251名がHIV抗体検査を受診し、全員が陰性との結果が出ています。

② 子宮頸がん・乳がん検診推進事業（補助金事業）

チェンマイ県6郡での3年事業が2013年10月に終了しました。3年間で子宮頸がん検診受診率が15%から63%に、乳がん自己触診実施率が89%まで向上しました。異常が見つかった女性全員がその後精密検査を受け、6名が子宮頸がん、21名が乳がんと診断され、治療を受けることができました。同地域では、事業終了後も看護師やヘルスポランティアが中心となり、検診推進活動を継続しています。

③ HOPE パートナー教育支援（自主事業）

1998年以来継続しているプログラムですが、今年度は健康を取り戻すか、あるいは患者と家族が自分たちで治療を継続できると判断された患者4名が卒業しました。また、難病をわずらっていた患者が1名世界しました。タイ国籍を持たないなど支援が必要な子供が新たに4名参加し、現在は24名に対して支援を行っています。看護師・理学療法士と共に家庭訪問し、リハビリ治療を行うなど、個別対応のホームケアに力を入れて支援を継続しています。

④ 小児先天性心臓病手術支援（自主事業）

昨年に引き続き多くの企業や個人からの支援のもと、子ども達の心臓病手術支援を行いました。タイ国籍を持たない子供への支援も含め35名の手術に成功しました。また、地方に住む心疾患の疑いのある子供たちを救うため、チェンマイ大学病院の小児心臓外科医が医療器材を持ち込み、45名に対し移動検診を実施しました。

⑤ ベトナム乳がん検診推進事業（自主事業）

タイ事務所の経験を生かした乳がん検診推進事業を、ベトナム・ウィメンズ・ユニオン（VWU）と協同し、ベトナム北部にて3年計画で実施しています。1年目は3,794名が自己触診を実施し、86名に腫瘍が見つかり、その後の精密検査でうち10名が乳がんと診断され、それぞれ治療を受けています。2年目となる現在は、活動地を更に拡大し事業を継続しています。

3-4. ミャンマー支援（総事業費 314万円）

今年度はミャンマーで調査を実施し、活動地を選定しました。ネピドー特別自治区内のタッコン・タウンシップで母子保健を中心とした保健機能強化を支援する事業計画を作成しました。事業計画は保健省へ提出し、現在は事業合意書締結に向けて手続きを進めています。また医療機器の寄贈についても輸入手続きなどを進めました。

3-5. 東日本大震災支援活動（総事業費 1,434万円）

大震災発生から3年目となり復興支援中心の活動となっています。主な活動地の気仙沼市では引き続き医師会のご協力を得ながら民間医療機関の復興状況を調査し、第三次支援を実施しました。津波で医療機器が破損した産婦人科施設には手術用ベッドを寄贈し、これまでの妊婦検診のみから出産手術まで出来るようになりました。石巻市は市立病院仮診療所に寄贈したドクターカーや医療機器のメンテナンス、多賀城市は腎・泌尿器施設に透析用医療機器を追加寄贈しました。

4. その他

4-1. フィリピン台風緊急支援募金

昨年11月8日にフィリピン中部を襲った台風の被災者を支援するため、11月19日に募金を開始し、本年4月30日に終了するまでに1,873,500円が集まりました。輸送費・手数料を除いた金額を現地で支援活動を行っているシンガポールの人道支援・災害支援団体「マーシーリリーフ」を通して、ソーラー発電充電器や食料、衛生用品、簡易浄水器などの緊急支援物資として配布しました。

以上